

平成30年度 森林づくり推進支援金事業 実績総括表

(単位:円)

事業主体	事業項目	事業名	事業費	うち支援金
伊那市	みんなの暮らしを守る森林づくり	松くい虫枯損木処理事業	3,060,288	2,961,000
小計			3,060,288	2,961,000
駒ヶ根市	森林を支える豊かな地域づくり	民有林境界確定事業	1,728,000	886,000
	木を活かした力強い産業づくり	林道補修事業	1,047,600	400,000
小計			2,775,600	1,286,000
辰野町	木を活かした力強い産業づくり	しだれ栗森林公園管理棟デッキ修繕工事	1,236,600	1,022,000
小計			1,236,600	1,022,000
箕輪町	みんなの暮らしを守る森林づくり	景観形成事業	1,142,640	986,000
小計			1,142,640	986,000
飯島町	みんなの暮らしを守る森林づくり	林道補修事業	2,224,800	677,000
小計			2,224,800	677,000
南箕輪村	みんなの暮らしを守る森林づくり	松枯損木等処理業務	720,251	706,000
小計			720,251	706,000
中川村	木を活かした力強い産業づくり	県産材利用促進事業	1,070,420	670,000
小計			1,070,420	670,000
宮田村	木を活かした力強い産業づくり	林道整備事業	1,188,000	593,000
小計			1,188,000	593,000
合計			13,418,599	8,901,000

平成30年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

伊那市

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松くい虫枯損木処理事業
事業費 3,060,288 円 (うち支援金: 2,961,000 円)		

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫被害は年々被害が拡大しており、大径木や住宅・道路付近の松枯損木については通常の伐倒が困難なため、特殊伐採が必要になるケースが増加している。

(2) 本事業の目的

特殊伐採による松枯損木処理を実施することで、松くい虫被害の拡大を抑えると同時に、倒木による被害を未然に防ぐこと。

事業内容

(1) 実施場所 伊那市松枯損木処理業務実施場所で、特殊伐採を要する場所

(2) 対象者 市内の森林所有者及び松枯損木処理委託業者

(3) 実施方法 民家・道路付近や大径木等の処理で、松林健全化事業及び保全松林緊急保護整備事業（衛生伐）の補助対象にならない特殊伐採処理を行なう。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～34 年度） 交通量の多い道路沿いや住宅付近などで、特殊伐採が必要となる箇所について事業を実施する。

②平成 30 年度計画（実績）

伊那市野底堤北西、伊那市西春近北小学校南通学路

事業費 3,060 千円



事業効果

(1) 事業実施による効果

人家や幹線道路、通学路付近等に発生した松枯損木は、通常の伐採では対応できず、重機の使用やツリーライミング等の特殊伐採を積極的に実施し、倒木による被害を未然に防ぐとともに、松くい虫被害の拡大を抑え健全な森林づくりを推進する。

処理木の搬出が困難な場所で多量に発生した枯損木については、搬出路を設置し搬出・破砕処理を行うことで森林環境の悪化を防ぐ。

(2) 継続性

松くい虫被害は、道路沿いや山際などに特殊伐採を必要とする森林に沿って拡大する傾向があるため、継続して事業を実施することにより松くい虫被害の拡大抑制と倒木による被害の防止を図る。

(3) 普及性

特殊伐採を実施し、危険な松枯損木を処理することで、市民の暮らしを守り、里山の森林整備を推進することができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

本事業については、交通量の多い市道野底手良線の沿線と、西春近北小学校南側の通学路沿線で松くい虫枯損木の特殊伐採処理を実施し、松くい虫枯損木の倒木による被害を抑えることができた。

(2) 課題

特殊伐採を必要とする松くい虫枯損木処理は年々増加傾向にあり、財源の確保が課題となっている。

(3) 今後の取組方向

■事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

松くい虫被害の拡大に伴い、特殊伐採を必要とする松くい虫枯損木処理が増加する傾向にあるため、今後も引き続き事業を継続する。

□事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

□事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

駒ヶ根市

No.	事業項目	事業名
	「森林を支える豊かな地域づくり」に関する事業	民有林境界確定事業
事業費 1,728,000円 (うち支援金: 886,000円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

駒ヶ根市における森林面積は 12,477ha であり、総面積の 75% を占める。そのうち民有林面積は 9,111ha である。民有林の人工林面積は 4,743ha で、人工林率は 52% となっている。

(2) 本事業の目的

上記の現状と課題に対し、境界を明確化し世界測地系座標を持たせることから、計画的な森林施業の実施を促進する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 市有林のうち、境界測量未実施箇所

(2) 対象者 駒ヶ根市

(3) 実施方法 境界測量を行い、地形図との重ね合わせ図を作成する

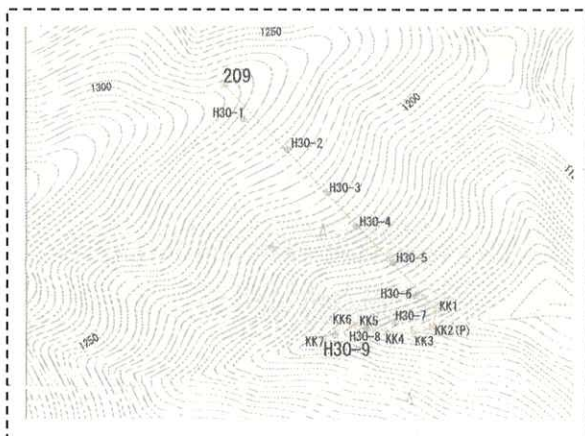
(4) 事業目標及び当年度事業量

① 全体計画 (平成 30~34 年度)

総額 7,500 千円の事業計画により維持管理等を行なっていく

② 平成 30 年度実績

境界測量未実施箇所の測量 (L=367.34m、W=20m)、重ね合わせ図作成 1 式



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

境界が明確になることにより、計画的な森林施業の実施促進が期待できる。

(2) 継続性

境界測量を実施し、世界測地系座標を持たせることにより、GPSの活用が図られ、事業効果の継続性を発揮できる。

(3) 普及性

計画的な森林施業の実施が促進されれば、間伐や作業道開設等により、事業の効果が目に見える形で発現できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

山林の境界を知っている方が少なくなっている中で、GPSを活用して境界確定を容易にすることで森林整備の促進につながる。

(2) 課題

現在の事業実施状況ではすべての市有林の境界が明確化されるまでに時間を要する。山林の境界を知っている方が少なくなっている状況もあり、早期に完了されたい。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

駒ヶ根市

No.	事業項目	事業名
	「木を活かした力強い産業づくり」に関する事業	林道補修事業
事業費 1,047,600円 (うち支援金: 400,000円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

駒ヶ根市における森林面積は 12,477ha であり、総面積の 75% を占める。そのうち民有林面積は 9,111ha である。民有林の人工林面積は 4,743ha で、人工林率は 52% となっている。

(2) 本事業の目的

上記の現状と課題に対し、木材生産を進める森林における適正な林道管理により、計画的な森林施業の実施促進を支援する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 林道松前線

(2) 対象者 駒ヶ根市

(3) 実施方法 公共補助林道事業の対象とならない林道松前線の維持管理及び補修を行なう

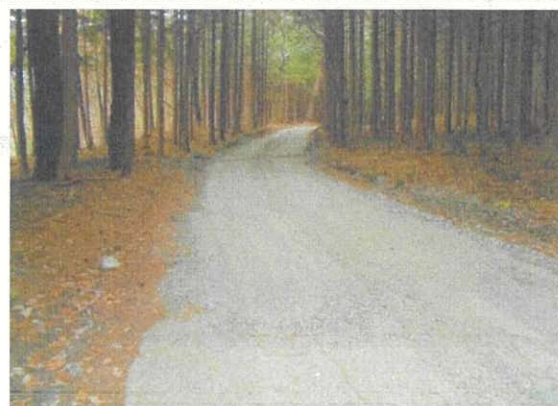
(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30~34 年度) 総額 12,500 千円の事業計画により維持管理等を行う

②平成 30 年度実績 林道松前線の維持管理及び補修

路面復旧工 L=1,300m

側溝整備工 一式



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

林道の維持管理及び補修を実施することにより、計画的な森林施業の実施促進が期待できる。

(2) 継続性

維持管理が適切に行なわれていない林道は災害等に脆弱である。例えば、降雨による路面洗堀や、落葉及び落石などによる水路閉塞等が引き金となり被災しやすい。また、復旧までに時間を要し本来の目的の達成が困難となることから、災害等を未然に防ぐ取組みとして事業効果の継続性を発揮できる。

(3) 普及性

林道は登山やトレッキングにも活用され、観光振興の観点からも重要である。また、民有林における人工林の搬出間伐を進めていく中で重要な位置づけであり、林道を基幹に作業道開設等も行なわれるため、多くの県民への恩恵が期待できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

林道補修により、計画的な森林施業の実施促進が期待できる。

(2) 課題

降雨や、落葉及び落石などによる水路閉塞等により、補修後も路面洗堀等が起こってしまう可能性がある。災害等を未然に防ぐためにも適切な維持管理を継続的に実施されたい。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

辰野町

No.	事業項目	事業名
2	「木を活かした力強い産業づくり」に関する事業	しだれ栗森林公園管理棟デッキ修繕工事
事業費		1,236,600 円 (うち支援金: 1,022,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

県産間伐材の普及が活発ではなく、林業が停滞気味である。また次世代への担い手不足も否めない状況である。

(2) 本事業の目的

国天然記念物しだれ栗が自生する森林公園に、県産間伐材を利用して管理棟デッキを修繕するとともに、森林税活用事業をPRすることで、間伐材利用の促進と森林税活用事業の普及啓発を図る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 しだれ栗森林公園

(2) 対象者 しだれ栗森林公園に訪れる人

(3) 実施方法

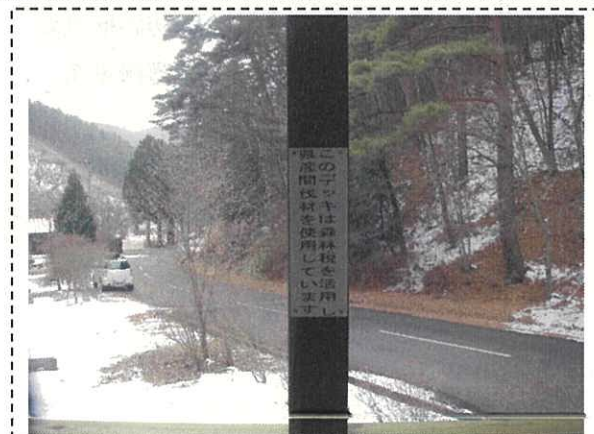
しだれ栗管理棟デッキの修繕工事とともに、県産材利用及び森林税活用事業をPRするプレートを設置する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30~34 年度) しだれ栗森林公園管理棟デッキ修繕工事、しだれ栗森林公園案内板更新、しだれ栗森林公園防護柵改修工事

②平成 30 年度実績

しだれ栗森林公園管理棟デッキ修繕工事



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

県産間伐材の利用及び森林税活用事業をPRするプレートを設置することにより、訪れた人達に間伐材の有効利用と森林税活用事業のPRができ、木材利用の大切さ及び森林整備の促進が期待できる。

(2) 継続性

しだれ栗森林公園では建物の老朽化が進んでおり、他の木造建築物でも間伐材の有効利用と木材利用の大切さをPRしていき、森林整備の促進が期待できる。

(3) 普及性

夏場は利用客が多く、毎年サマーキャンプ等のイベントが開催されるため、木材利用の大切さ及び森林整備の促進が期待できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

既存の部分が劣化により修繕が必要となったが、県産間伐材を利用した為、材の利用促進が図られた。また新聞記事でも掲載(平成31年1月1日長野日報、平成31年1月13日辰野新聞)され、しだれ栗森林公園及び森林税のPRを行った。

(2) 課題

防腐剤注入加工は行っているが、雨風にさらされる箇所であり腐食等が考えられるので定期的な安全点検やメンテナンスが必要。

(3) 今後の取組方向

- 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

しだれ栗森林公園案内板更新

しだれ栗森林公園防護柵更新

はたる童謡公園防護柵更新

- 事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

- 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

箕輪町

No.	事業項目	事業名
1	「みんなの暮らしを守る森林づくり」に関する事業	景観形成事業
事業費 1,142,640 円 (うち支援金: 986,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

主要道路沿線の森林内に主林木以外のアカシヤ等が生育し景観を損ね、また主要道路への倒木が多発している現状。私有林が多く林業経営に適さない森林であり、森林所有者の関心は薄い森林である。

(2) 本事業の目的

森林内の除伐や下刈りを実施することにより、森林の景観形成、主林木の育成や倒木の予防を目的とし、森林の適正管理に資する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所：主要地方道伊那辰野停車場線沿線の私有林

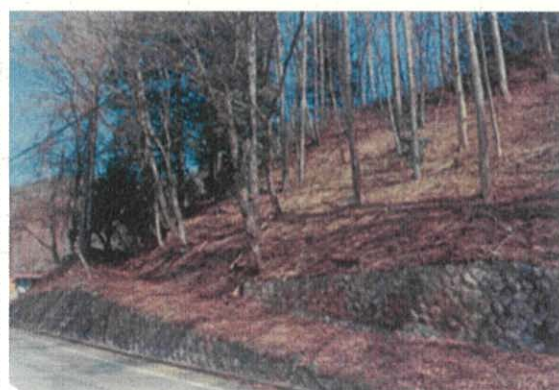
(2) 対象者：森林所有者の同意を得て、箕輪町

(3) 実施方法：主要道路沿線の森林所有者に同意を得たのち、主林木以外を除伐し下刈りを実施し景観形成を図る。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30~34 年度) : 5,000,000 円 (年 1,000,000 円)

②平成 30 年度実績 : 1,142,640 円



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

除伐等を実施することにより、森林整備の重要性を森林所有者に理解させ、森林経営に意欲を持たせるとともに、景観形成が図れる。

(2) 継続性

里山整備利用区域の選定。

里山利用推進協議会活動として、景観形成事業への移行。

(3) 普及性

景観形成が行われ、多発していた倒木による通行止の解消。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

主要地方道伊那辰野停車場線沿線の景観形成が行われ、主林木の育成や倒木防止に効果

(2) 課題

事業箇所が広範囲のため、効率的かつ経済的に実施していくための検討が必要

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

平成31年度から県の制度が変更されることに伴い、三日町福与地区里山整備利用推進協議会(設立準備中)での防災・減災のための里山整備事業に移行予定。

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

飯島町

No.	事業項目	事業名
1	「みんなの暮らしを守る森林づくり」に関する事業	林道補修事業
事業費		2,224,800円 (うち支援金:677,000円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

飯島町における森林面積は 6,274.72ha であり、総面積の 72%を占めており、民有林面積は 3,210.58ha で 51%を占めている。なお、アカマツ、カラマツ、スギ及びヒノキを主体とした民有林の人工林面積は 1,673.48ha であり、人工林率 52%となっている。

(2) 本事業の目的

上記の現状と課題に対し、木材生産を進める森林における適正な林道管理により、計画的な森林施業の実施を支援し、均衡のとれた健全な林分造成を目指すものとする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 林道横根山線、林道横沢線

(2) 対象者 飯島町

(3) 実施方法 公共補助林道事業の対象とならない林道横根山線、林道横沢線の維持管理及び補修を行なう。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30~34 年度) 総額 12,000 千円の事業計画により維持管理を行なう。

②平成 30 年度実績

ア 林道横根山線の維持管理 倒木処理、落石処理工 L=60.0m

イ 林道横沢線の維持管理 不陸整正工 L=250m



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実施」欄に「林道横根山線倒木処理、落石処理工」)

(1) 事業実施の効果

林道の維持管理及び補修を実施することにより、搬出間伐の増大が期待できる。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

維持管理が適切に行なわれていない林道は災害等に脆弱であり、降雨による路面洗掘、落葉及び落石による水路閉塞等が引き金となり、被災しやすい。一度被災すると復旧までに時間を要し、本来の目的(森林整備の推進)の達成が困難となることから、災害等を未然に防ぐ取組みとして事業効果の継続性を発揮できる。

(3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

林道は里山等の登山路及びトレッキング等にも活用され、観光振興の観点からも重要な路線である。また、民有林における人工林の搬出間伐を進めていく中で重要な位置づけであり、林道を基幹に作業道開設等も行なわれるため、多くの県民への恩恵が期待できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

林道の維持管理及び補修を実施することにより、搬出間伐の増大が期待できる。また、町の重要なライフラインである上水道の安定供給維持にも寄与できた。

(2) 課題

降雨や、落葉及び落石などによる水路閉塞や倒木により、補修後の路面洗掘が起こってしまう可能性がある。災害等を未然に防ぐためにも適切な維持管理を継続的に実施していく。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

引き続き、予算確保及び自営工事等により適切な維持管理に努める。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

南箕輪村

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松枯損木等処理業務
事業費		720,251 円 (うち支援金: 706,000円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

南箕輪村内では年々松くい虫被害が拡大しており、松枯損木の中には、住宅や幹線道路付近などで枯損した木が倒れて被害が発生する可能性が高い。このため、通常の伐倒作業が困難な箇所については、クレーン車・高所作業車の使用、木に登ってロープを架けて安全に伐倒するなどの作業が必要になるケースが増加している。

(2) 本事業の目的

特殊伐採による松枯損木処理を実施することで、倒木による被害を未然に防ぐとともに、松くい虫被害の拡大を防止し、森林の健全化を図る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 全村 (松くい虫補助対策事業外)

(2) 対象者 特殊伐採対象松枯損木所有者

(3) 実施方法 人家や道路付近で倒木被害が懸念される松枯損木に対して特殊伐採処理を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～34 年度) 倒木被害が懸念される松枯損木の特殊伐採処理

②平成 30 年度実績 倒木被害が懸念される松枯損木の特殊伐採処理 27 m³

事業費 720 千円



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

人家や幹線道路、寺社等の付近の松枯損木の特殊伐採処理を積極的に行うことにより、倒木被害を未然に防ぐとともに、通常の伐倒駆除と併せて松くい虫被害の拡大を防止し、健全な森林づくりを推進する。

(2) 継続性

継続的に松枯損木の特殊伐採処理を行うことにより、松くい虫被害の拡大防止及び村民の暮らしを守っていく。

(3) 普及性

松枯損木については全村に被害が拡大しており、住民の目に付く至る箇所が存在し、被害の拡大が懸念されている。

松枯損木を特殊伐採処理することにより、景観の保全と地域の振興に寄与することができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

本事業については、人家や幹線道路、寺社等の松枯損木の特殊伐採処理を実施し、倒木等による被害を抑えることができた。

(2) 課題

松くい虫被害が年々増加し、特殊伐採を必要とする箇所も増大しており、財源確保や被害拡大防止が課題となっている。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

枯損木による倒木等の被害を防ぎ、松くい虫の拡大を防ぐために、今後も引き続き事業を継続する。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

中川村

No.	事業項目	事業名
1	1「木を活かした力強い産業づくり」に関する事業	県産材利用促進事業
事業費		1,070,420 円 (うち支援金: 670,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

中川村に広がる山林は地域の共有林として管理され個人に分割された森林が多いが、近年森林所有者の山離れが進み、整備が行き届かず放置された森林が目立つようになっている。木材価格の低迷や、次世代の担い手不足等も課題となっている。放置森林が増えることによって地域への鳥獣被害が深刻な問題となっており、長期的な視野を持った、早急な対応が求められる。

(2) 本事業の目的

県産材の利用促進を図るため観光地等の施設に県産材を利用した設備の充実を促進する。特に事業実施箇所の陣馬形山では中央アルプス・南アルプスを望み、眼下に伊那谷が一望できる絶好の眺望地であり、近年登山者やキャンプ利用者などが増加している。村の観光施設に県産材を利用した階段スロープを設置することで、利用者に県産材を身近に感じてもらう環境を整備する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 中川村大草陣馬形山

(2) 対象者 中川村

(3) 実施方法

- ・ 県産材を使用した階段スロープの作成

(4) 事業目標及び当年度事業量

① 全体計画 (平成 30～34 年度)

陣馬形山キャンプ場周辺の整備(木材を使用した階段、テーブル、ベンチなどの設置)

② 平成 30 年度実績

県産材を使用した階段スロープの設置



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

本事業の実施により利用者に県産材を身近に感じてもらう事で、木のぬくもりや利便性を感じてもらい、木材への関心を高めてもらうと共に森林整備の必要性などがPRできる。

(2) 継続性

キャンプ場の利用者の増加に伴い、場内の設備の更新や周辺森林の整備など、観光関係者(村観光協会)と連携しながら継続的に事業を進めていく。

(3) 普及性

キャンプ場内に県産材を利用した施設を整備していくことで、利用者にPRすることができる。特に本年実施の階段スロープ設置については、安全な足場により小さな児童や高齢者でも安心して利用してもらうことができ、大きな普及効果が見込まれる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

県産材を使用した階段スロープを設置したことで、キャンプ場内を周りの景観にマッチした整備をすることができ、木のぬくもりや自然を間近に感じる事ができる環境を整えることができた。また、県産材木材の利用についてPRすることができた。

(2) 課題

設備は木製製品であり、地面から1m程の高さがあるため腐食等により転落事故が発生すれば大きなケガにつながりかねない。その為定期的な安全点検やメンテナンスが必要となる。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

陣馬形キャンプ場内は多くの観光客が訪れる人気スポットとなっているが、場内には老朽化した木製橋やベンチ、テーブル等がある為、引き続きこれらを更新し設備利用者の安全確保と木材利用の普及と関心を高めてもらう。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

宮田村

No.	事業項目	事業名
1	「木を活かした力強い産業づくり」に関する事業	林道整備事業
事業費 1,188,000 円 (うち支援金 : 593,000 円)		

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

計画的な間伐材の搬出及びトラックでの運搬時に、たびたび土砂崩落による林道の災害が起こり、間伐作業及び運材車両の通行に支障をきたしており、林道の被災等を未然に防ぎ、安全な車両の通行確保が求められる。

(2) 本事業の目的

計画的な間伐材生産を進めるため、災害等を未然に防ぎ、間伐材の搬出作業及び木材運搬車両の安全な通行を図る。また、林道終点にある宮田高原キャンプ場の利用者への利便を図る。

事業内容

(1) 実施場所：林道寺沢線

(2) 対象者：林業事業者、一般観光客

(3) 実施方法：林道脇に県産間伐材の丸太を利用した落石防護柵を設置し、林道法面から崩落してくる巨石、土砂を路面手前で防護する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

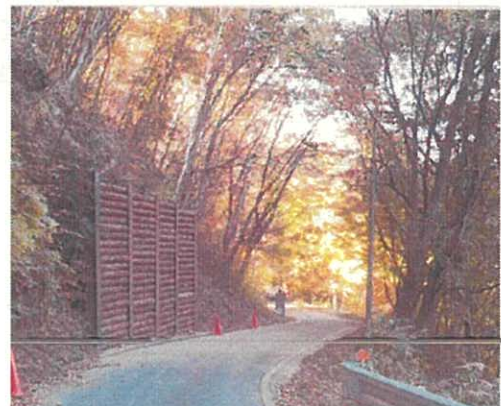
①全体計画 (平成 30～34 年度)

年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
丸太防護柵	延長 L=8m	延長 L=8m	延長 L=8m	延長 L=8m	0

②平成 30 年度実績

落石防護柵設置工事 L=8.0m

着工前



事業効果

(1) 事業実施の効果

落石防護柵設置工事を実施することで、通行車両の安全が確保され、森林整備の推進が図られる。

(2) 継続性

防護柵を設置することで、通年安全対策が図られ、重機による毎年の土砂撤去費用が軽減される。

また、今後森林整備の計画的な実行が図られる。

(3) 普及性

計画的な搬出間伐を進めていく上で重要な路線であるとともに、避暑地あるいは憩いの場として利用される宮田高原へのアクセス道路として観光振興の観点からも重要な路線であり、多くの県民への恩恵が期待できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

林道を整備したことにより、林道の保全及び、林産物搬出・造林等林道関係作業車両ならびに宮田高原キャンプ場の利用者の交通の円滑化・安全が図れた。

(2) 課題

例年、豪雨による落石等もあり、定期的な点検と管理が必要である。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

引き続き、林道が安全に走行できるように林道整備を実施していく。

年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度
丸太防護柵	延長 L=8m	延長 L=8m	延長 L=8m	0	0

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)